

## 長期戦略:テーマ 「学生生活支援の充実(寮)」

提出日 2022年 8月 24日

担当部署

## II.実施計画帳票

長期戦略テーマの責任者 (統轄部署)	学長 (総合企画部)	実施計画の 担当部署	国際教育寮 WG
-----------------------	---------------	---------------	----------

## 1. 実施計画

実施計画(タイトル)	取組開始	達成状況 確認年度	学部・研究科での 取組み有/無	帳票
1-(15)-① (SGU2-3) (SGU2-3) (SGU2-3) 全学生寮の国際教育寮への転換、外国人留学生宿舎の確保、ポスト SGU も見据えた寮 政策の立案	( 2014 )年度	( 2023 )年度	必要なし	不要
内容				
<p>日本人学生と外国人留学生の混住型国際教育寮における共同生活を通じ、国際理解教育を進める。</p> <p>国際理解教育の観点から、女子寮に続き、既存の男子寮についても混住型国際教育寮と位置づけ、日本人学生と各国からの外国人留学生が共同生活を送るなかで文化・宗教・習慣・考え方・感じ方の違いを知り、そこから生じる障壁を乗り越えながら相互の理解を深める場とする。また、教育寮としての効果を高めるためには、教員の舎監、管理人、RA (Resident Assistant) についてそれぞれ明確に機能を定めて配置する。留学生を主対象とする寮にも(管理人とともに) RA を配置し、混住による教育の場と位置づける。すべての学生寮を単なる居住施設ではなく教育施設として位置づけ、それぞれの個性を生かした濃淡のある「国際教育寮」へと転換を進める。</p> <p>また、学生寮関連業務の集約化及び積極的な外部委託の導入を進め、全学的な寮政策の立案・推進を目的とし、「レジデンスセンター」を2022年4月に新設する。レジデンスセンターは、KSCのインキュベーション施設(2025年供用開始予定)に併設する学生寮にかかる業務も管轄し、全学的な寮業務の集約化を推進する。</p> <p>寮については居住する学生・外国人留学生を学院が寮生に見えない形で財政負担していることから、支援相当分を奨学金制度に転換して可視化を図る。</p>				
進捗状況を測る 指標	指標名	定義・算式		
指標1	国際理解教育の充実度	<p>(定義)</p> <p>「大学 IR コンソーシアム在学生調査」で検証している汎用的能力獲得状況のうち4項目(①異文化の人々と協力する能力、②異文化の人々に関する知識、③外国語の運用能力、④グローバルな問題の理解)の獲得状況</p> <p>(算式)</p> <p>上記4項目で「大きく増えた」「増えた」と答えた者の割合の平均値について、上級生時マイナス1年生時の値(1年生→上級生の増加ポイント)を指標とし、全学生平均と国際教育寮入居経験者とで比較する。</p> <p>(付記)</p> <p>フェーズ1終了時点で、より適切に「国際理解教育の充実度」を測定する指標があれば、定義・算式を変更する。</p>		

指標2	(SGU) 外国人留学生のうち、日本人学生との混住型国際教育寮に住む外国人留学生の数	混住型国際教育寮に住む外国人留学生の数 (5月1日現在)
指標3	(SGU) 混住型国際教育寮に住む日本人学生の数	混住型国際教育寮に住む日本人学生の数 (5月1日現在)
指標4	(SGU) (指標2の内数) 啓明寮、静修寮、成全寮、清風寮に住む外国人留学生の数	各寮に住む外国人留学生の数 (5月1日現在)
指標5	(SGU) 外国人留学生宿舎の確保数	関西学院大学が外国人留学生にアレンジできる部屋の数 (RAを含む) (10月1日現在)
指標6	正規留学生受入に関する財政支援のあり方の見直し	N/A (奨学金制度、学費減免、宿舎支援等の現状を他の7大学と比較し、適切な定義・算式等を検討する)

## 目標1&lt;指標1&gt;国際理解教育の充実度

	(2019)年度	(2020)年度	(2021)年度	4年目以降
目標			N/A	2023年度までにレジデンスセンターで定義・算式にもとづく具体的な測定方法と目標値を決定する。
実績				

## 目標2&lt;指標2&gt; (SGU) 外国人留学生のうち、日本人学生との混住型国際教育寮に住む外国人留学生の数

	(2019)年度	(2020)年度	(2021)年度	4年目以降
目標	36人 (SGUで設定)		85人	95人(2024年度) 95人(2027年度)
実績	83人	24人	10人	31人(2022/5/1現在)

参考(2017年5月1日現在): 77人 現状の混住型国際教育寮=清風寮、国際学生レジデンスⅣ、同Ⅴ、啓明寮、静修寮、成全寮

## 目標3&lt;指標3&gt; (SGU) 混住型国際教育寮に住む日本人学生の数

	(2019)年度	(2020)年度	(2021)年度	4年目以降
目標	84人 (SGUで設定)		165人	160人(2024年度) 160人(2027年度)
実績	166人	165人	167人	170人(2022/5/1現在)

## 目標4&lt;指標4&gt; (SGU) (指標2の内数) 啓明寮、静修寮、成全寮、清風寮に住む外国人留学生の数

	(2019)年度	(2020)年度	(2021)年度	4年目以降
目標	啓明、静修、成全3寮合計5人以上 清風寮12人		啓明、静修、成全3寮合計10人以上 清風寮12人	啓明、静修、成全3寮合計10人 清風寮12人(2024年度、2027年度)
実績	啓明2、静修3、成全寮2、合計7人、清風寮13人	啓明1、静修1、成全寮2、合計4人、清風寮7人	成全寮1人、清風寮1人	啓明1、静修2、成全寮1、合計4人、清風寮2人(2022/5/1現在)

参考(2018年5月1日現在):定員12名(清風寮のみ)

## 目標5&lt;指標5&gt; (SGU) 外国人留学生宿舎の確保数

	(2019)年度	(2020)年度	(2021)年度	4年目以降
目標	合計255部屋	合計260部屋	合計270部屋	合計280部屋(2024年度) 合計280部屋(2027年度)
実績	合計215部屋	合計215部屋	合計215部屋	合計244部屋

参考:(2017年10月現在)215部屋

(内訳) ホームステイ(51)、レジデンスⅡ(33)、レジデンスⅢ(11)、レジデンスⅣ(27)、レジデンスⅤ(72)、清風寮(12)、その他(9)

参考:(2021年10月現在)244部屋

(内訳) ホームステイ(15)、レジデンスⅡ(33)、レジデンスⅢ(11)、レジデンスⅣ(27)、レジデンスⅤ(72)、有光寮(65)、清風寮(12)、その他(9)

※ホームステイは2021年度の実施をしなかったため、2022年8月時点のマッチング数とした。

※有光寮は定員83から一般日本人18人を除いた、RAおよび外国人留学生にアレンジできる部屋数。

※その他は男子3寮に3名ずつを想定。

## 目標6&lt;指標&gt; 正規留学生受入に関する財政支援のあり方の見直し

	(2019)年度	(2020)年度	(2021)年度	4年目以降
目標	他大学の情報収集結果および別テーマ(1.(14)奨学金)の進捗に連動して検討する。			他大学の情報収集結果および別テーマ(1.(14)奨学金)の進捗に連動して検討し、22年度までに方針を決定する。
実績			他大学の情報収集結果および別テーマ(1.(14)奨学金)の進捗に連動して検討を始めた。	ポストSGUの受入留学生奨学金政策と連動させて検討する必要があるため、23年度中に方針を決定する。

## 2. 実施計画:ロードマップ

		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
(1)男子3寮を含む 既存学生寮の国際 寮化	策定段階	留学生定員の設置 (啓明、静修、成全 3寮合計5人以上 清風寮12人)	留学生定員拡大に向 けての準備・調整	留学生定員の拡大(啓 明、静修、成全 3寮合計10人以上 清風寮12人)		
	2023年3月 末段階	留学生定員の設置 (啓明、静修、成全 3寮各3名程度、 清風寮12人)	留学生定員拡大に向 けての準備・調整	留学生定員拡大に向 けての準備・調整	留学生定員拡大に向 けての準備・調整	
		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	-
	策定段階 2023年3月 末段階					
		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
(2)RAの配置およ び制度改良による 国際教育の充実	策定段階	国際学生レジデンスV RA5人	RA制度の効果検証 他の寮への拡大につ いて検討	(2020年度の検討結果 による)	RA制度の効果検証 他の寮への拡大につ いて検討	
	2023年3月 末段階	国際学生レジデンスV RA8人	国際学生レジデンスV RA9人 新国際教育寮への RA制度導入準備	国際学生レジデンスV RA9人 新国際教育寮への RA制度導入準備	国際学生レジデンスV RA6人・有光寮RA3人 の採用	
		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	-
	策定段階 2023年3月 末段階					
		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
(3)外国人留学生 宿舎の確保・整備	策定段階	物件情報の収集 適宜、賃借等について 検討し、目標5に定め た宿舎数を確保し必要 な整備を行う	新国際教育寮の設計 および着工	新国際教育寮の竣工お よび供用開始		
	2023年3月 末段階	新国際教育寮(83室) 建設理事会承認		新国際教育寮の竣工お よび21年度末供用開始	有光寮の供用開始	
		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	-
	策定段階 2023年3月 末段階					

		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
(4)収支マイナス補てんの奨学金への転換(日本人学生、留学生共通)	策定段階	N/A 別テーマ(1.(14)奨学金)の進捗に連動		ポストSGUを見据え検討開始		
	2023年3月末段階					
		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	-
	策定段階					
	2023年3月末段階					
		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
(5)正規留学生受入に関する財政支援のあり方の見直し	策定段階	他大学の情報収集結果および別テーマ(1.(14)奨学金)の進捗に連動して検討する。		ポストSGUを見据え検討開始		
	2023年3月末段階					
		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	-
	策定段階					
	2023年3月末段階					
		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
(6)レジデンスセンター(仮称)設置	策定段階		レジデンスセンター設置方針案承認	レジデンスセンター担当専任職員1名の先行配置	国際連携機構にレジデンスセンター開設(第1フェーズ22-23年度)	第2フェーズ(24年度以降)のセンター移管組織の決定
	2023年3月末段階		レジデンスセンター設置方針案承認	レジデンスセンター担当専任職員1名の先行配置		レジデンスセンター担当専任職員1名の先行配置
		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	-
	策定段階	第2フェーズ開始センターを移管				
	2023年3月末段階					

## 3. 実施計画:費用計画・人員計画

【費用・人員を必要とする理由】

非公開

経費 単位:万円

(2020)年度

2021 年度 承認

2022 年度 承認

2023 年度 承認

4 年目以降

非公開

人員・人件費 単位:万円

(2020)年度

2021 年度 承認

2022 年度 承認

2023 年度 承認

4 年目以降

非公開

## 4. 進捗状況・得られた成果

2019 年度	留学生宿舎不足問題に対応するため、清風寮と聖和寮に隣接する土地に新国際教育寮（21 年夏供用開始、83 室）の建設を理事会決定した。
2020 年度	長期戦略に掲げる混住寮での国際理解教育及び全学的な寮施策の推進、寮業務の集約化を目的とし、2022 年度よりレジデンスセンターを新設する提案を国際教育寮 WG として取りまとめ、20 年 9 月のグローバル化推進本部会議でセンター設置提案が了解された。20 年 10 月末現在、上位会議への意思決定プロセスを進めている。
2021 年度	2022 年度のレジデンスセンター設置に向け、国際教育・協力センターに設置準備担当の専任職員を 1 名配置した。センターの組織運営体制、機能、業務の統合ステップについて国際教育寮 WG で案をまとめ、グローバル化推進本部会議で了解を得た。寮業務の標準化、効率化のため、外部部委託業者とともに関係部局にヒアリングを実施し業務フローの作成を行った。なお、管理・運営業務の外部委託費用については、相見積もりを実施した上で、追加予算申請を行う。
2022 年度	2022 年 4 月よりレジデンスセンターを開設し、建物管理や寮費徴収等の管理・運営業務については統一した形で業務委託を行っている。2022 年はフェーズ 1（2022-23 年）の過渡期であるため、寮生対応等については学生課、聖和キャンパス事務室とも連携をしながら業務を進めている。 寮での濃淡のある国際教育推進の具現化に向けては、レジデンスセンター運営委員会の下、寮教育プログラム検討 WG を設置し、各寮の留学生比率、寮教育のコンテンツと実施体制、教職員の役割・機能明確化、学生自治の在り方等について課題の整理、検討を行っている。

## 5. 今後の課題及び方向性

2020 年度	新国際教育寮の運用ルール検討、3 部署に散在する学生寮業務の集約、積極的な外部委託導入の検討を行う。
2021 年度	レジデンスセンター開設に向けての準備を進める。効率的な業務集約に向け、全学 3 部署に散在する学生寮関連業務の現状課題の抽出と解決策の立案、22 年度以降の組織運営面での意思決定プロセスの整理等を行う。 また、21 年度夏供用開始の新国際教育寮を中心として、聖和地区 3 寮の国際教育寮の推進を図る。
2022 年度	2022 年度にレジデンスセンターを開設する。21 年度配置済みの専任職員 1 名と契約職員（CIEC の宿舎担当）がセンター業務を担当し、全学 3 部署における建物管理や寮費徴収等の管理・運営業務については統一した形で、外部委託を行う。 国際教育寮推進のための寮運営については関係部局、舎監、寮生等とも丁寧なヒアリングを行った上で、その運営体制、寮文化、教育体系を国際教育寮 WG で検討し、23 年度中を目途に方針を示す。 また、コロナ禍により供用開始が 22 年度春となった有光寮を中心として、聖和地区 3 寮の国際教育寮の推進を図る。
2023 年度	寮教育プログラム検討 WG での議論をベースに、国際教育寮 WG で本学の学生寮の目指すべき姿、教育プログラムの運営体制等についての答申案を 2022 年度中を目途にまとめる。また、フェーズ 2（2024 年～）以降のレジデンスセンター附置先についても合わせて検討を進める。

## 6. 学院総合企画会議の基本方針

2020 年度	専任職員1名については、配置する方向とし、人事部にて対応します。
2021 年度	業務委託外注費用については、追加予算申請を認めます。
2022 年度	—

## 7. Total Review の結果

## 【フェーズ I (2019～2021)】

レビュー結果	可 否	備 考 (継続:「フェーズ II に向けた課題」 廃止:その理由と今後の方向性)
<p>・2021 年夏竣工予定の「国際教育寮」について、総合建設計画における新規計画として承認済みである。これにより、受入が困難となっていた留学生の居室が確保された。</p> <p>・上記「国際教育寮」を含む 10 の学生寮は、担当が 3 部署に分かれており、効率的に管理・運営するとともに、教育機能を担うことを目的に、「レジデンスセンター(仮称)」を設置する。</p>	<p>継続</p> <p>・ 廃止</p>	<p>・「レジデンスセンター(仮称)」における管理・運営・教育機能の検討および確立</p>

## 【フェーズ II (2022～2024)】

レビュー結果	可 否	備 考 (継続:「フェーズ II に向けた課題」 廃止:その理由と今後の方向性)
	<p>継続</p> <p>・ 廃止</p>	